

海域における環境改善対策として、汚泥浚渫、覆砂、浮遊ゴミ等の回収、浅場・藻場等の創出・再生、生物に配慮した護岸構造物等への改良、深堀跡の埋戻し等を着実に実施。

また、環境の変化を身近に市民が体感・実感できるような場所であるアピールポイントにおいて、海底清掃やイベントの開催など各種施策を実施している。

汚泥浚渫
(汚泥浚渫量 308,300m³)



江東区辰巳運河

浮遊ゴミの回収
(浮遊ゴミ回収量 74,867m³,
油回収量 4m³)

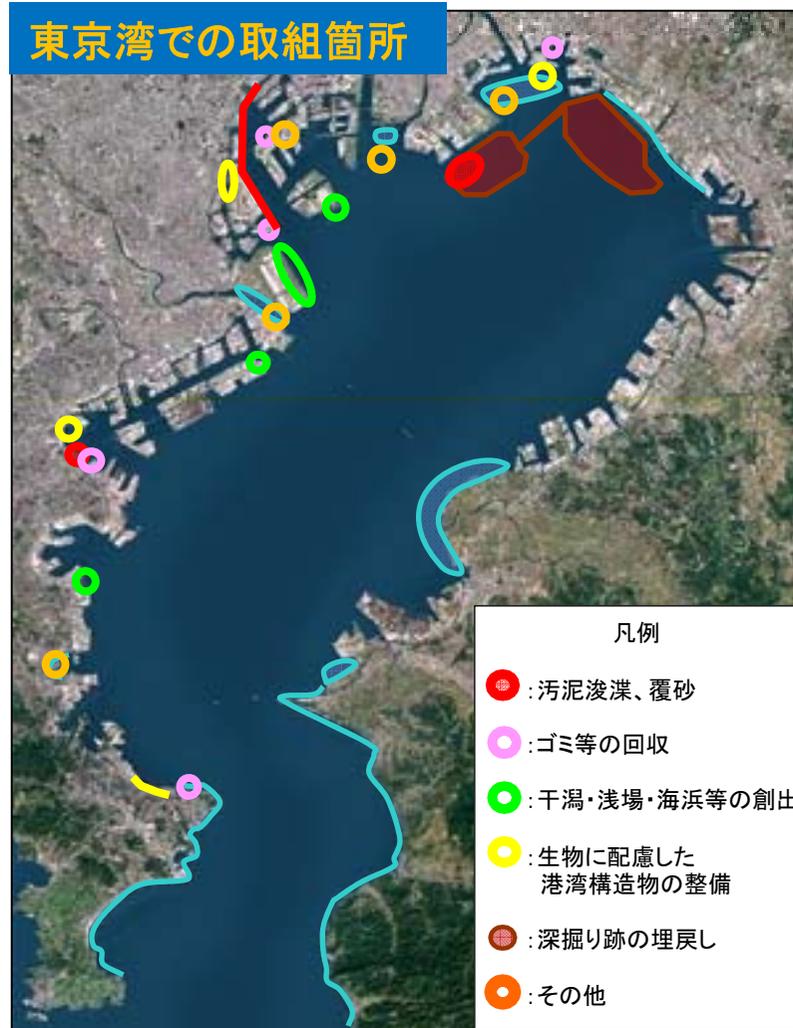


海洋環境整備船(べいくりん)

浅場の創出
(浅場・海浜造成量
8.5ha)

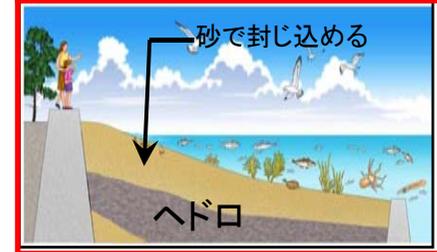


羽田沖



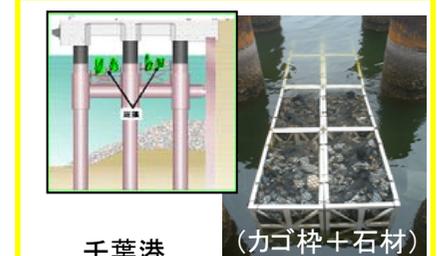
● : 行動計画策定以前から存在していた干潟・浅場・海浜等

覆砂
(覆砂量 460,700m³)



砂で封じ込める
ヘドロ

生物付着基盤となる施設
(全整備延長 2,215m)



千葉港 (カゴ枠+石材)

ボランティアダイバーによる
海底ゴミ回収
(ゴミ回収量 約44.3t)



横近浜

(海域)「第一期行動計画 取組みと成果について」

海域による各施策の効果事例

- ・浚渫土砂を活用した覆砂により、底泥からの栄養塩の溶出抑制の効果や底生生物の個体数の増加が確認された。
- ・生物共生型護岸の整備により、生物の加入及び再生産による生物種類数の増加が確認された。

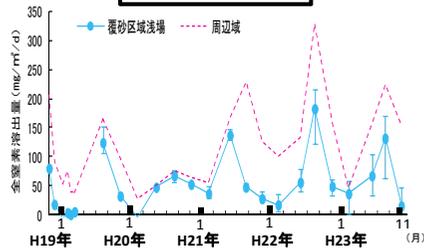
東京湾奥部における覆砂(浦安沖)

事業期間:
平成17~18年度

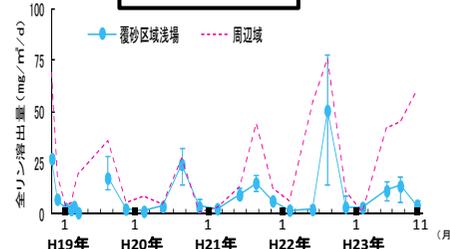


浦安沖

窒素

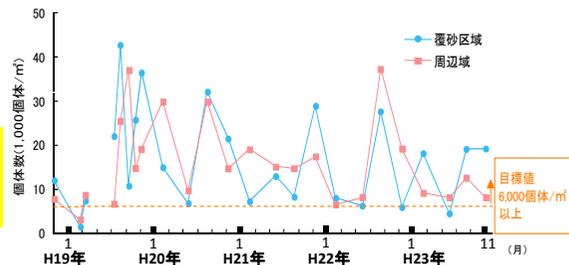


リン



底泥からの栄養塩の溶出抑制効果

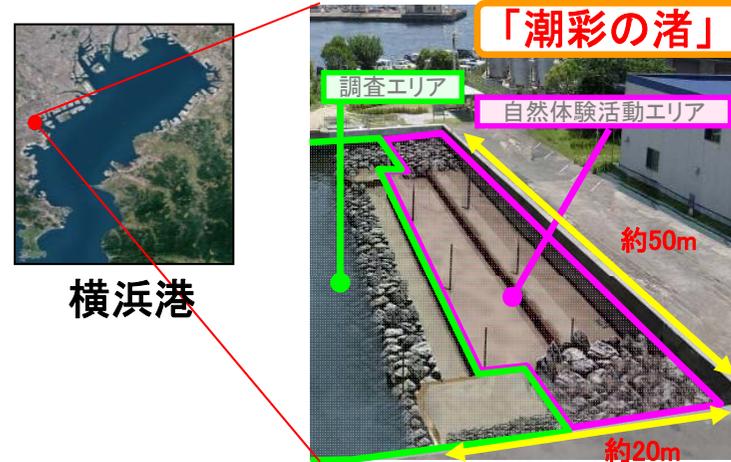
底生生物の個体数



底生生物の
個体数の変化

生物共生型護岸の整備(横浜港)

事業期間:
平成19年度



横浜港



研究機関による生物調査



市民・NPO等による
自然体験活動

確認された生物種類数の推移

